【授業科目】慢性看護学特論Ⅰ(概念と理論)　Advanced Chronic Illness Nursing Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
大久保 仁司	1年次 前　期	選　択	2	３０	講　義	巻末 掲載

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	慢性的な健康問題（がんを含む）をもつ患者と家族における苦悩を理解し、医療・看護のあり方、看護援助について探求し学ぶ。また、患者と家族の意思決定や倫理的課題について探求し学ぶ。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／プレゼンテーションについては授業内でコメントする。また、提出されたレポートについてはコメントをつけて返却する。
授業の 位置づけ	本大学院のディプロマ・―ポリシー③、④の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	① 慢性的な健康問題をもつ患者と家族の苦悩を理論や概念を用いて説明できる。 ② 慢性的な健康問題をもつ患者と家族における療養の場を踏まえた看護援助について説明できる。 ③ 慢性的な健康問題をもつ患者と家族の治療や療養における意思決定・倫理的課題について説明できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	事前学習は各回に関係する文献を読んでおく（2時間）。事後学習は学んだ理論・概念を用いて事例を展開し、学びを応用に結び付ける（2時間）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回　慢性疾患の現状と課題 　病いと慢性性 第2,3回　慢性期にある人と家族 　地域における患者・家族 　心理社会的苦痛やスピリチュアルペイン 第4,5回　療養の場における看護の機能と役割 　在宅療養への移行に向けた支援 第6～10回　慢性期看護で用いられる理論 　モースの病気体験における希望と苦悩 　病みの軌跡モデル 　ライフストーリーの理論 　セルフケア理論 　行動変容 第11,12回　意思決定・倫理的課題における看護 　治療における意思決定 第13,14回　慢性病におけるエンド・オブ・ライフケア 　下降期・臨死期にある人の苦痛 第15回　慢性期にある人療養支援における多職種連携と看護の役割
	全て 大久保
評価方法 評価基準	課題に対するプレゼンテーション、レポートなどによって総合的に評価する。
教科書	教科書の指定はしない。適宜，資料配付や文献を紹介する。
参考書等	ピエール・ウグ編、黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡、コービンとストラウスによる看護モデル、医学書院、1995. 桜井厚、他：ライフストーリー・インタビュー、質的研究入門、せりか書房、2005. 長江弘子編：看護実践にいかす　エンド・オブ・ライフケア（第2版）、日本看護出版界、2018.